

## JAゆうき青森自己改革取組宣言

これまでも、これからも、地域とともに  
JAゆうき青森は「総合事業」を展開します

農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組みます。

このため、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。

そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、「食と農を基軸として地域に根差しざした協同組合」として、組合員・地域住民から信頼されるJAをめざします。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

JAは、農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農産物の販売や、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方で、地域農業の発展や地域づくり、ニッポンの食を応援していただける方は、地域農業の応援団として准組合員として加入いただいております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、JAの経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、JAの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

主な具体的な取り組みは、次のとおりです。

## 1. 予約購買品の決裁サイトの2ヶ月延長と奨励措置を充実し、コスト低減を支援

○予約購買品の決裁サイトを10月から12月に延長

○肥料の年内供給の予約価格値引きを5.0%から5.5%に引き上げ。

○大口奨励措置を品目ごとから、購買品（肥料、農薬、段ボール（共選除く）、種子）の購入金額を対象とした奨励措置に変更。また、奨励率を3.0%から3.5%に引き上げ。

## 2. ながいもの残差処理費用を年間約3分の1に削減

○発電事業社と協力し、ながいも残渣を活用したバイオガス発電事業に取り組み、JAが発電事業社へ施設利用料を支払い、バイオガスをJAが発電業者へ販売することで処理費用を削減します。

削減額 【およそ700万円】

## 3. 労働力確保対策

○大学生等の援農サークルや企業の農業研修を活用した、新たな労働力不足の支援対策に取り組みます。

受け入れ予定人数 【企業農業研修 120名】

【援農サークル延べ人数およそ200名】

## 4. 農業生産・農業所得増大支援対策

○農業生産及び農業者の所得増大対策として生産対策助成を実施します。

【土壌分析助成 1,000千円】

【堆肥購入助成 4,000千円】

【種苗事業 4,900千円】

【むかご助成 5,000千円】

【種子等購入助成 4,300千円】

【土壌消毒助成 1,800千円】

【肥育素牛購入対策 2,400千円】

【和牛優良繁殖基礎雌牛群の整備

3,900千円】

【乳用雌牛生産流通対策

1,000 千円】

【牛群検定助成 800 千円】

【乳用雌牛・繁殖和牛削蹄助成

6,200 千円】

○生産規模の拡大を行う農業者を支援するため、新規就農者の育成や無料職業紹介事業（外国人技能実習制度）による労働力支援を行います。

【新規就農者数 40 名】 ※24 年～

【ながいも担い手育成塾開催数 5 回】 県共催

【外国人技能実習生 20 名】

【TAC巡回数延べ 1,200 件】

○土壌診断による土づくり、残留農薬検査の厳格化、生産履歴記帳の徹底、GAPへの取組みを通じ、これからも安全・安心な農畜産物を安定的に生産してまいります。

【土壌診断件数 2,000 件】

【残留農薬検査件数 100 件】

【生産履歴記帳回収件数 700 件】

【GAP（生産工程管理）の取組み】

内容 J-GAP

品目 ながいも、にんにく、ごぼう

○JAは総合事業を通じて、地域の農業とくらしを守り、地域みんなの願いをかなえる取り組みを行うという使命があります。そのため、組合員組織による仲間づくりや食農教育活動、福祉サービス活動等を通じて地域社会へ貢献します。

【食農教育活動 3 件】

内容 伝承料理教室、保育園もちつき等

【福祉サービス事業 3 件】

内容 高齢者の生きがい活動

【PR活動事業 5 件】

内容 イベントでの試飲・試食

また、皆様の営農とくらしを守るため、営農改善費等として予算額 171,362 千万円を準備しております。

なお、当 J A の営農指導事業の主な取り組みは次の通りです。

- ① 農地の集積・集約化を推進し、認定農業者、生産集団の規模拡大や低コスト化による効率的かつ安定的な経営に努める。
- ② 安全・安心な農産物の信頼確保のため、出荷前残留農薬検査、GAP への取り組み支援を行い信頼される産地づくりに努める。
- ③ 次世代を担う子供たちに対し、食と農の理解を得るための活動に取り組む。
- ④ 高齢者・女性農業者の知恵と経験を活かし、食と農を基軸とした地域活動を展開する。
- ⑤ TAC を中心とした階層別（大規模農家・法人・若手農業者等）の訪問活動を強化し、生産者ニーズの掘り起こしと実態把握による事業活動に取り組む。
- ⑥ 外国人技能実習生の適正な紹介活動と、受入れ及び管理団体として適切な指導・相談に努め、円滑な技能実習活動が進められるよう支援する。

【営農改善費／予算額 138,872 千万円】

【営農企画費／予算額 12,600 千万円】

【生活改善費／予算額 4,380 千万円】

【教育情報費／予算額 15,510 千万円】